

## 生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画策定懇話会（第1回） 摘録

【日 時】 令和2年7月20日（月）午後2時00分～

【場 所】 生駒市コミュニティセンター（セイセイビル）401会議室

【参加者】 花嶋 温子座長、河瀬 玲奈、黒部 實、清水 綾、藤田 照子、上武 敏一、坂本 剛伸、山下 博史、樽井 雅美、林 光子、築地 明子

【欠 席】 佐藤 聰仁

【事務局】 岡田市民部長、奥田環境保全課長、木戸課長補佐、鳴川係長、山下係員  
地域計画建築研究所 伊藤

### 1. 開会

市長挨拶

市長

現行計画ではごみ半減を目指したが、目標の達成は難しい。現行計画を振り返りながら、次期計画を策定していきたい。生駒市は市民活動が活発であり、市としても「SDGs 未来都市」に選定されたり、「ゼロカーボンシティ」を宣言している。ごみを中心とした環境面に限らず、例えば空き家を環境とつなげる、コミュニティとつなげるなど、ごみを切り口としてまちづくりを進めていきたい。

現行計画を振り返りながら、世代やバックグラウンドが異なる様々な委員から今後10年の方針について、忌憚ないご意見をいただきたい。

参加者紹介

資料確認

### 2. 座長互選

花嶋委員が座長に選出される

座長挨拶

座長

話をうまく引出し、懇話会をまとめていきたい。新型コロナウイルス感染拡大により、今までのままではだめという意識が醸成されている。また、7月1日からもレジ袋有料化が義務化され、うまくいけば使い捨てをやめることができるのではないかとと思われる。本懇話会には様々立場の方がおり、バランスがよいので、是非力添えをいただきたい。

### 3. 案件

（1）現計画の概要と次期計画の考え方について

事務局説明

参加者

5Rとはどのようなものか。

事務局

3Rに、「Refuse：断る」、「Repair：修理する」を加えたものである。

参加者            フードドライブ・フードバンクやシェアリングエコノミー等のカタカナ語が多く、  
わかりにくい。どのような意味か。

事務局            生駒市では、家庭で消費できない食品を受け付け、フードバンクならに寄付して  
いる。そのような取り組みをフードバンクと呼んでいる。  
                         シェアリングエコノミーについては、地域やグループで、例えば車等の個人で所  
有していたものを共有して、ものが増えないようにすることである。

参加者            食品トロックとはどのようなものか。

事務局            市独自の物々交換の仕組みである。食品を提供し、別の食品を持って帰ってもら  
う。これにより食品ロスの削減につながる。

参加者            お皿のもったいない市に近いものか。

事務局            そうである。もったいない市の食品版である。

参加者            5 R以外にも rethink、refine を含めて7 R、さらには10 Rもある。標語として  
5 Rはよいが、わかりやすい説明が必要ではないか。

参加者            現行計画で実施できているものと実施できていないものを示していただきたい。  
また、次期計画の取組については現行計画から継続の取組と新規の取組がわかるよ  
うにしていきたい。

事務局            次回提示する。今回は計画の考え方をご審議いただきたい。

参加者            現行計画の評価がない状況で、次期計画の考え方を議論するには違和感がある。

座長              詳しくない方もいらっしゃるので、まずは全体の大枠を説明いただくのがよい。次  
回は現行計画の成果を説明だけのことということでよいか。

事務局            承知した。

座長              次期計画については、かなり具体的に方向性が決まっているように思われるが、  
いかがか。

参加者            現行計画の策定に携わった委員の方はいらっしゃるか。その時のお話を伺いたい。

- 事務局            いない。
- 参加者            100 の複合型コミュニティについては、知らない委員も多いので説明頂きたい。どの程度、本気で取り組むのか、意気込みを聞かせていただきたい。  
また、生ごみのたい肥化設備やキエーロを集会場に設置することはできるのか。生ごみのたい肥化の取組みは今後も継続するか。
- 事務局            ごみ減量市民会議の方で啓発を行っている。  
生ごみの減量のためには、生ごみを出さない、燃やさないことが必要であり、そのためにたい肥化やキエーロは必要であると考えます。
- 参加者            キエーロを利用させてもらっている。兼業農家には役に立つものであると思われる。
- 座長              ごみ減量市民会議からみて、今までの 10 年と今後の 10 年ほどのような見通しか。
- 参加者            ごみ減量市民会議は、啓発を中心に地道な活動を続けている。現行計画策定後に、会議は発足したが、参加者に温度差があるのが課題である。  
市の取組についても、取り組んだその年度は、ごみは減量するが、翌年度以降は効果が薄れたり、リバウンドすることがありえる。
- 座長              次期計画は具体的な取り組みが例示されている。現行計画では、目標が焼却処理量半減であったが、次期計画は如何に。
- 参加者            100 の複合型コミュニティとはどのようなものか説明いただきたい。
- 事務局            次回説明する。
- 参加者            長く市内に在住しているが、昔は各戸収集であったが、ステーション収集へ変わった。ステーションの位置を移動してほしい依頼したことがある。できれば柔軟に対応いただきたい。
- 参加者            例えば財政負担が減るなどのごみを減らすことのメリット、必要性を市民・事業者を示す必要がある。ごみの減量のみ視点ではなく、まちづくりの視点から位置づけるのがよいであろう。
- 参加者            雑紙は分別しているが、個人情報記載された紙は燃えるごみに捨てている。雑

紙に出しても安心できる仕組みが必要である。

参加者 現行の計画で何ができていて、何ができていないか精査が必要である。現行計画ではごみ半減というはっきりとしたビジョンが見えるが、次期計画はそのビジョンが見えない。ごみの減量の加えて、どのような副次的な効果があるのか、ビジョンを示していただきたい。

参加者 一般市民は、お得感がないと動かないであろう。ごみをこう減量することで、こう得する、と見えるようになるとよい。

## (2)「ごみに対することについて」アンケート(案)について

### 事務局説明

参加者 p.1の問1の冊子の存在については、8～9年前に策定ものについて聞くのか。  
p.1の問3(2)キエーロは広報誌の「いこまち」にも出ていたが、聞く必要がるのか。  
p.2の問6は廃食用油について追加してはどうか。  
p.6の問15の6.プラスチックごみの清掃活動を行っているは、普通の清掃活動との違いがわからない。  
p.7の問18～21は聞くのではなく、啓発していく時期ではないのか。

事務局 各々精査する。  
プラスチックごみの清掃活動は、それだけを行ってはいないと思われる。プラスチックごみを気にして清掃活動をしているか、との意図であるが、わかりにくいので削除する。

参加者 前回のアンケートと比較することは考えているか。また、地域ごとに分析するのか。認知度は何%以上であればよいなどの市の基準はあるのか。

事務局 比較できるようなアンケートはない。

参加者 有料指定袋のサイズに関する質問を加えてはどうか。

事務局 そのように追加する。

座長 アンケートや各設問について、何を目的にするのかははっきりさせるべきである。

参加者 今回初めて実施するのであるため、10年後に再度実施するときに継続的に把握したいことを質問するとよい。

- 参加者 10年前の現行計画の策定時にはアンケートはなかった。今回のアンケートは細かいようである。市では別に定期的にとっているアンケートがある。
- 座長 市が実施した既存のアンケートも参考にするとよいだろう。
- 事務局 アンケート内容は、再度精査する。その後改めてご意見をいただきたい。
- 参加者 プラスチック成型品がなぜ燃えるごみか説明ができないので、先日の報道でもあった、プラスチックごみの一括回収はよいことである。  
アンケートでは8割くらいが分別していると回答していても、啓発活動などを行っていてもそのように感じる。2・6・2の法則といわれているように、取組を進めても動かない2割に人をどのように動かすかが重要である。そのような人がどのようにしたら分別に協力してくれるか、聞けるとよい。
- 座長 その2割はアンケートに回答しない人が多い可能性もある。
- 参加者 アンケートはクロス集計を行うのか。配布数が1,000件では少ないのではないか。
- 参加者 1,000件の根拠は。
- 事務局 予算の制約であるが、配布数は再度検討する。また、アンケートの内容についても再度精査し、月末を目途に発送したい。

以上